

## 保健医療分野における「コントロール願望」の概念分析

山田晃子 川上あずさ  
奈良県立医科大学医学部看護学科

### A concept of Analysis of Desire for control in health and Medical care domain

Akiko Yamada Azusa Kawakami  
Faculty of Nursing, School of Medicine, Nara Medical University

#### I. 背景

人には本質的に生活の出来事をコントロールしたいというニーズがある。コントロールについて、Orem (1995) は、基本的に正確で適切な範囲に物事を維持する過程であると定義している。しかし、時には適切な範囲を超えて、自己が意図する方向へのコントロールを願望することがある。例えば、子どもが発熱しても保護者が仕事を休めない場合、保護者が子どもを保育所に預けるために発熱を何とかしたいと思い、高熱ではなくてもやむをえず解熱剤を使用する場面が考えられる。この自己が意図する方向に対象をコントロールすることは、健康の維持・増進に影響をもたらす恐れがある。

日常生活の出来事をコントロールに対する動機付けを、社会心理学者である Burger (1992) は、コントロール願望 (Desire for control) と名づけた。コントロール願望は、社会的や臨床的現象において重要な役割を果たしていると述べている。

コントロール願望 (Desire for control) は、海外の研究では、心理学をはじめとして、教育学、保健医療などの分野で、行動との関連が検討されてきた。しかし、日本ではコントロール願望に関する研究が、少なく統一した概念がない。

保健医療分野におけるコントロール願望を、人々が健康の維持・増進する方向に発揮し、適切な対処方法を判断し実行できることが重要である。看護実践として、人々の身体的精神的な健康の維持、増進を支援する

ために、保健医療分野におけるコントロール願望の概念を活用した援助の方向性を検討する必要があると考える。

そこで、本研究は、Walker ,et al.(1995) の手続きを用いて、保健医療分野におけるコントロール願望の概念分析を行い、定義属性、先行要件、帰結因子、概念の定義を明らかにすることを目的とした。

#### II. 方法

まず分析の対象とする文献を抽出した。国内文献は、医学中央雑誌 Web、Cinii を用いて年代は指定せず検索語「コントロール」and「願望」、「コントロール願望」で検索し、32 件の論文が得られた。

このうち、抄録、若しくはタイトルにコントロール願望という言葉が記述されていた 3 件を抽出した。この 3 件の論文を入手して精読し、コントロール願望の概念について記述のある 2 件を抽出した。

最初に抽出した 32 件のタイトルと抄録を概観したところ、やせの願望や意識、減量の希望が含まれる文献が 8 件認められた。そこで、検索語を「やせ願望」として、Cinii を用いて検索した。この抽出した文献のうち、コントロール願望が記されていた文献 1 件を追加した。

また本研究の動機が、小児の発熱時の保護者の対応であったことから、医学中央雑誌 Web を用いて、検索語「保護者」「発熱」「コントロール」で検索し抽出された 1 件を追加した。合計 4 件を対象とした。

海外文献は、CINAHL を用いて年代を指定せず、言語を英語と指定して、検索語を「desire for control」として検索したところ、165 件の文献が得られた。文献の抄録を読み、desire for control、もしくは desire to control と記述がある 24 件を抽出して文献を入手し精読した。このうち、desire for control の概念について記述されている研究目的に沿った 3 件を抽出した。また最初に抽出した 24 件の文献で繰り返し引用され研究目的に沿った文献 1 件を追加し 4 件を分析対象とした。

最終的に分析対象文献は、合計 8 文献とした。それらを分析シートに定義属性、先行要件、帰結を整理して記入し Walker, et al. (1995) の概念分析の手法を参考に概念分析を行った。

分析のプロセスならびに結果については、概念分析の研究経験がある指導者にスーパーバイズを受け、分析の信頼性、妥当性を確保するよう努めた。

### Ⅲ. コントロール願望の定義属性

#### 1. 辞書・論文等に掲載されているコントロール願望の用いられ方

コントロール願望を定義している辞書は、確認することができなかった。

コントロールについて、岩波書店の広辞苑では、①「制御すること。うまく調節すること。統制。管理」と②「野球で、制球。制球力」の 2 つの意味が記されていた。そして願望は、「ねがいのぞむこと。ねがい。がんもう」と記載されていた。社会学分野では、コントロールは「望ましいと思われる方向に行為や状況を意図的に導く作用」と記述されていた(宝月,2005)。

願望については、社会学小辞典では、「一般的には、あこがれ、欲望をさす。一部の研究者には、意識的欲望に限定するものもある。」と記されていた。

海外では、心理学分野で Burger (1992) は、コントロール願望 (Desire for control)

の定義として「人々に日常生活の出来事をコントロールするように引き起すもの、動機付け」と motivate を用いて記述していた。

この行動への動機付け (motivate) について、Deci, et al. (1985) は、自己決定 (self-determination) という行動を選択し決定する能力が本質的に不可欠であり、それは能力でもあり欲求でもあると述べていた。Burger (1992) は、Desire for control における control の用法と self-determination が似ていると述べていた。

わが国においては、精神科医である春日 (2007) は、「人間には、他人を思い通りに操作して満足感を得たいというコントロール願望とでも称すべき厄介なものがある」と記していた。このコントロール願望について、春日 (2007) は、他者に対する愛情と不可分な性質があると述べていた。

#### 2. 保健医療分野における「コントロール願望」の用いられ方

分析対象文献と文献に記されたコントロール願望の主体者を表 1 に示す。分析対象文献から、コントロール願望がどのような意味で用いられているかを解釈した結果、定義属性は、【対象の制御】【自己の思い通りの基準】【何とかしなければならないという思惑】を抽出した(図1)。以下、定義属性、先行要件、帰結因子を【 】で表す。

1) 【対象の制御】: 対象を、自己による意思決定のもと、直接に操作すること。

分析対象文献では、他人を操作し自分の思惑どおりにコントロールしようとする事(春日, 2008; 島田, 2012), 終末期の患者が死に至る方法の制御に強い願望を抱くこと(Winberg, et al., 2003)、ヘルスケアプロセスにおいて直接の影響を及ぼす行動を選択することである(Smith, et al., 1984) と記述されていた。

いずれの事例も、対象を直接に操作していることが示された。

仕事を継続することを目標としているがん患者が、仕事ができなくなることを理由

に、疼痛緩和のための治療を頑なに拒否し続けた事例を通して、Volker,et al. (2004)は、患者自らの治療を決める議論に患者自身が参加して意思決定することをコントロール願望 (Desire for control) であると記していた。

コントロール願望 (Desire for control) について、Volker,et al.(2004)は、Lewis(1987)が示した Typology of control を引用して、Processual control であると記していた。Processual control とは、ある出来事とそれに対する反応、反応者にもたらされる結果について影響を及ぼす議論や意思決定に参加することである (Lewis, 1987)。これより、コントロール願望は、対象を制御する際に、自己による意思決定のもと行動するという要素を見出した。

2)【自己の思い通りの基準】:適切な範囲にこだわらない、自己判断による基準。

末期がん患者の事例において、いつ病院を受診するか、臨床試験で何を実施するかをコントロールすることを望んでいたと述べられていた。(Volker, et al., 2004)。

終末期の患者が、安楽死を望み、医師に致死量の薬剤処方の要求を決意することは、いつ、どのような方法で死を迎えるかをコントロールすることが重要であるという患者の信念であると記されていた (Winberg,et al. 2003)。

これらの患者が目指している状態は、2事例とも、医学的根拠や倫理観に基づき、基本的に正確で適切であるとは、誰もが納得し難い側面を持つ。コントロール願望は、自己の思い通りに判断した基準に、対象の制御を目指していることが示された。

3)【何とかしなければならないという思惑】: どうにかして、思い通りにコントロールしなければならないという意図。

子どもに対する親の態度として、春日 (2008) は、期待と使命感と高望みとが混ざり合い、子どものためにと信じつつ彼らを自分の意思どおりにコントロールしよう

とすると述べている。

また、末期がん患者の事例として、毎日、仕事に行き、その時間を仕事に費やすことを最優先としていたため、時には6週間毎のCT検査を受けないことがあったという記述が見られた (Volker,et al.,2004)。

歯科医が、治療法についてこうでなければならぬという「こだわり」が強い場合、そのこだわりを患者に強要することがある (島田, 2012) と述べていた。

いずれの事例にも共通していることは、子ども、仕事、歯科治療、それぞれにこうあるべきという目標が存在していることである。3事例の根底には、この目標を達成するために、何とかしなければならないという強い思惑があったと考える。この思惑が強い場合、行動目標達成のために、対象を意図的に制御する行動に駆り立てていると考えられる。

また子どもの発熱時の保護者について、広野ら (2009)は、熱の高さに関わらず、早く受診し服薬すれば「今日中に何とかできる」と考えており、外来受診を希望する保護者には、早く症状をコントロールしたいという「あせり」があると述べていた。

これより、何とかしなければならないという思惑には、早く対象をコントロールしたいという、目標達成に早さを求める場合があることが認められた。

#### IV. 事例による検討

##### 事例1. 発熱している用事の母親

3歳の女兒が、夕食後20時頃、いつもより元気がないために、母親が熱を測ると38度0分の発熱を認めた。女兒は、食事を普段どおり食べており、嘔吐や下痢も見られなかった。母親は、突然の発熱で心配になり小児救急電話相談に電話をかけた。相談員からは、特に症状がないので、冷やすなどして様子を見て、翌朝にかかりつけ医を受診するように指示され、母親は、一旦電話を切った。しかし、母親は仕事をしており、明日

表1. 分析対象文献と文献に記述されたコントロール願望の主体者

文献名	著者	発行年	コントロール願望を発動する主体者
Measuring desire for control of health care processes.	Smith ,R.A., et al.	1984 年	出産教育を受けた妊娠期の女性 亡くなりゆく末期患者
女子大生のやせ願望意識と行動.	塩入 輝恵他	1999 年	女子大学生
Physician-assisted suicide in Oregon: what are the key factors?	Wineberg, H., et al.	2003 年	オレゴン州で安楽死を選択した終末期の患者
Stroke perceptions of well laypersons and professional caregivers.	Gilmet, K., et al.	2003 年	脳卒中発作について介護の専門職者と健康な非専門職者
Patient control and end-of-life care part I:	Volker ,D.L., et al.	2004 年	がん看護についての専門知識と技術を備えた看護師が実践で出会った末期がんの患者
家族の困惑・家族の幸福(2) コントロール願望について	春日 武彦	2008 年	人格障害と診断される人々 子どもを持つ親の親 夫がアルコール依存症の妻
保護者はなぜ不要な救急外来受診をするのか? (一電話相談の分析から)	広野 優子他	2009 年	小児科開業医かかりつけ患者による診療時間外の電話相談利用者のうち発熱を主訴とする受診前の相談者
「歯科患者学」から探る GP の難症例対応 (強迫観念とコントロール願望)	島田 淳	2012 年	歯科医師

は、仕事を休んで受診することが難しい。

また感染症であると診断された場合は、保育所に一定期間、預けることができなくなる。そのため、母親は、熱を早く【何とかしなければならぬという思惑】とあせりから、一刻も早く受診して治療開始するという、電話相談員の指示とは異なる【自己の思い通りの基準】で、受診のタイミングの【制御】をしたと考えた。そこで、母親は、寝かかった女兒を起こして、22 時ごろ夜間休日応急診療所を受診した。診察までに一時間ほど待たされた。診察の結果、38 度 5 分以上の発熱時に使用する解熱剤だけを処方された。家に戻ると、女兒はぐったりしてすぐに寝てしまい、解熱剤は使用しなかった。

#### 事例 2. 食事の好き嫌が多い幼児の母親

4 歳の男児は、食事の好き嫌が多く、食事に集中しない。男児が食事中に、途中で席を立てうろうろするので、母親は繰り返し注意をしていた。注意するほど、男児が耳をふさぎ怒り出すため、母親は、困り果てていた。

母親は、楽しく食べて欲しいとの思いから、比較的、男児の自由にさせていた。しかし、来週からは、幼稚園の給食も始まる。このままでは、周りの子どもたちや先生に迷惑をかけてしまうので、母親に、【何とかしなければならぬという思惑】とあせりが出てきた。そこで、母親は、育児書を参考にして、男児が座って落ち着く食事ができるように、食事

行動の【制御】を、試みることに決めた。

事例1は、電話相談で指示された内容とは異なる基準で、夜間に受診して、思い通りに発熱を下げようと試みており、定義属性である【自己の思いどおりの基準】【対象の制御】【何とかしなければならないという思惑】が適合している。定義属性の全てが認められるためモデル事例である。

事例2は、食事のしつけについて、【対象の制御】を試みようとしている。しかし、子どものしつけの基準は、【自己の思いどおりの基準】というよりもむしろ、育児書を参考にした理論的に望ましい基準である。これより【自己の思いどおりの基準】が欠落しており、境界事例である。

## V. 関連する概念

保健医療分野におけるコントロール願望とそれに類似する概念とその違いについて検討する。

### 1. コントロール感覚 (Sense of Control)

最初の国内文献検索で抽出したタイトルと抄録には、コントロール感が記されていた。重症外傷患者のコントロール感について質的方法を用いて分析した佐々木ら(2006)は、コントロール感を「コントロールを思うようにできている、あるいはできていないという認知、またはそうしたいという欲求など個人が抱く感覚であり、自己がコントロールを行っている感覚 (sense-of-control) である」と記述していた。

これより、コントロール感覚 (Sense of Control) には、コントロールの主体者が、コントロールができるという認知が含まれていると考える。コントロール願望も「今日中に何とかできる」(広野ら, 2009) と、コントロールができると認識している点で類似する概念であると考えた。そこで、コントロール感覚との違いについて検討する。

コントロール感覚 (sense of control) について、Abeles (1991) は、望む結果を獲得するために行動する能力を持っていること、及

びその行動について社会的身体的環境が望むように反応するという期待と信念であると述べている。療養生活でコントロール感覚を獲得する過程について、Johnson, et al. (1990) は、病気と向き合わずに病人役割にとどまるのではなく、再び生きようと病気による生活の限界に向き合い適応する過程であると述べていた。

しかし、コントロール願望は、状況に向き合い適応するよりもむしろ、いかに自己の思い通りの基準に制御するかに関心が向いている。状況に対する向きあい方がコントロール感覚とコントロール願望では異なると考える。

### 2. コーピング (Coping)

対象文献より、コントロール願望は、目標とする状況の遂行が妨げられる恐れという当事者にとって負担がかかる場面で引き起こされていた (Volker, et al., 2004)。類似する場面で引き起こされる行動として、コーピングがあげられる。

コーピングについて、Lazarus, et al. (1984) は、個人のもつ資源に負担をかける、あるいは個人の資源を超えて、個人の健康を危うくすると評価されるような環境と人間の関係、すなわちストレスへの対象法であり、この特定の外的、内的な要求にうまく対処するために絶え間なく変化する認知的、行動的努力であると定義している。コーピングは、情動焦点コーピングと問題焦点コーピングに大別できるとしている。

情動焦点コーピングとは、Lazarus, et al. (1984) によると、情動的な苦痛をより少なくさせるための認知過程である。客観的な状況を変化させることなしに、ストレスの多い出来事との遭遇を、どのように解釈するかを変化させることである。

問題焦点コーピングについて、Lazarus, et al. (1984) は、問題解決するための方策であり、問題に焦点をあてた努力である。この2通りのコーピングについて、Boss (2002) は、人々の気分を良くするが、ストレスの原因となる因子を変化させることは不可能であると

述べている。

コントロール願望は、情動焦点コーピングのように解釈の仕方を変えるのではなく、目標とする状況に近づくために実際に行動する点で異なる。

また、問題焦点コーピングが、対象に向き合い問題解決的に取り組むのに対して、コントロール願望は、問題解決的というよりも、対象を自己の思い通りに制御するという点で異なる。

### 3. ストレスマネジメント (Stress Management)

Stress に対する不適切なコーピングを防ぎ改善する方法として、Stress Management がある (Lazarus, et al.1984)。同じく対処行動であるコントロール願望における行動の違いについて検討する。

Stress Management について、Greenberg (2008) は、賢明で論理的に、ストレスや緊張をコントロールするために利用できる技術であると述べている。Stress Management は、状況をどう解釈するかは人によって異なるが、この解釈を当事者の責任でコントロールして変化させることであると記している。

コントロール願望もストレスマネジメントも、行動の主体は当事者であり、当事者の意志や責任に基づいた行動である。しかし、コントロール願望は、論理的な技術というより

も、自己の思い通りの基準に制御しようとするものである。コントロールの対象は、自分の認知ではなく、原因となる対象を直接、コントロールしようとして行動する。この点で異なるといえる。

## VI. 保健医療分野におけるコントロール願望の先行要件と帰結

### 1. 保健医療分野におけるコントロール願望の先行要件 (図1)

対象文献より、保健医療分野におけるコントロール願望の先行要件は、次の5つが抽出された。

#### 1) 【満足感を得ることへの欲求】

春日 (2008) は、他人をコントロールすることで、全能感に近い満足感を覚えたいという気持ちがあると述べていた。

#### 2) 【目標とする状況の遂行の妨げ】

「明日は運動会だから」、「仕事を休めないから」今日中に子どもの発熱を何とかしたいと考える親 (広野ら,2009)、「好きな服を着たい」「格好が悪い」など外観的美しさをみせることの意識の強さの表れのためにダイエットをする (塩入ら,1999) という記述が見られた。

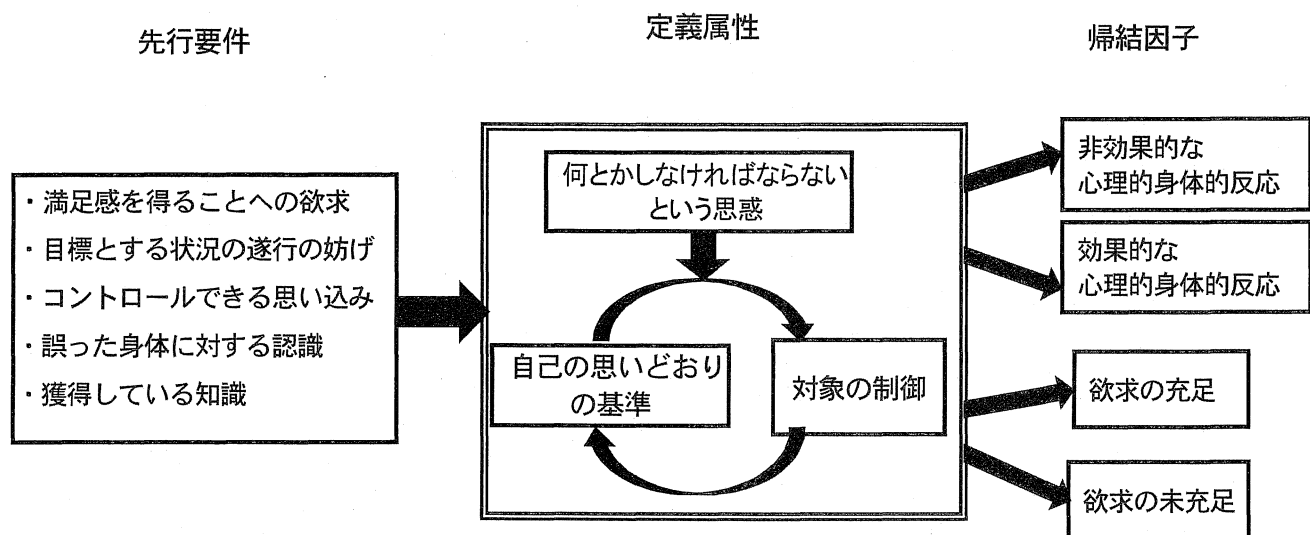


図1. 保健医療分野におけるコントロール願望の先行要件, 定義属性, 帰結因子

Volker,et al. (2004) は、仕事の継続を目標とするがん患者が、副作用のために仕事ができなくなる疼痛の緩和治療を頑なに拒否し続けたことを示していた。

当事者にとって目標とする状況の遂行が思い通りに運ばないと評価した場合、状況に影響している要因をコントロールすることで、実現しようとしていると考える。

### 3) 【コントロールできる思い込み】

保護者にとって子どもの発熱は、熱の高さに関わらず、何とかできるコントロール可能な症状であると記されていた(広野ら, 2009)。

### 4) 【誤った身体に対する認識】

BMI が正常範囲であっても、自分の体型を「太っている」と認識しダイエットを希望するものが多く、自分の体型に関して誤った認識を持っている(塩入ら,1999)と記述されていた。先行要因として、【誤った身体に対する認識】が見出された。

### 5) 【獲得している知識】

脳卒中発作を制御するために、脳卒中に関するより多くの知識を獲得すること(Gimlet,et al.,2003)、安楽死を含む終末期医療の選択肢についてより多くの情報を獲得できることが、安楽死の選択を導いている(Winberg,et al.,2003)と述べられていた。どれだけの知識を獲得しているかが、コントロール願望に影響を及ぼしているといえる。

## 2. 保健医療分野におけるコントロール願望の帰結因子 (図1)

対象文献より、保健医療分野におけるコントロール願望の結果生じるものとして、3つが抽出された。

### 1) 【非効果的な心理的身体的反応】

体重のコントロール願望によるダイエットの結果、生理不順、めまい、疲労感の症状が見られた(塩入ら, 1999)と記されていた。

### 2) 【効果的な心理的身体的反応】

一方で塩入ら (1999)は、体重のコントロール願望によるダイエットの結果について、体調がよくなった、運動が好きになった、自分に自信がついたなど良い結果を得た者の存在

にも注目したいと記述していた。

### 3) 【欲求の充足】

仕事をもちながら治療をしているがん患者のコントロール願望について、CT 検査を実施しないことにより、毎日決まった時間に仕事をするという患者にとって重要な責務が果たされた (Volker,et al.,2004)ことが示されていた。

### 4) 【欲求の未充足】

親が思惑通りに子どもをコントロールしようとするのは、親子の対立の一因となったりする(春日, 2008)と述べられていた。親が子どもをコントロールすることが、結果的に親子の対立を引き起こし、親の欲求が充足されないと考えられる。

帰結因子として、コントロール願望により、当事者が本来望んでいた成果がもたらされる

【欲求の充足】と、成果がもたらされない【欲求の未充足】を見出した。また、対象の意図的な制御によって操作された対象に、【非効果的な心理的身体的な反応】、その一方で【効果的な心理的身体的な反応】ももたらされる点を見出すことができた。

これより、保健医療分野におけるコントロール願望の概念の定義は、「保健医療の出来事に対して、適切な範囲とは異なる【自己の思いどおりの基準】に、【対象の制御】を願い、行動することである。またコントロール願望の成立には、【なんとかしなければならないという思惑】が関与している」とすることができた。

## VII. 測定用具

コントロール願望を測定する用具として、一般的な状況に対するコントロール願望と特定の状況に対するコントロール願望を測定するものがある。

Burger,et al. (1979) は、日常生活の出来事において、様々な状況による個人のコントロール願望の違いを測定するために the Desirability of Control Scale (DC) を開発した。Burger,et al. (1979) は、DC についての

記述で、desire for control を control motivation としていた。つまり、コントロール願望は、コントロールに対する動機付けや意欲という概念で調査できると述べていた。DC は、「一般的なコントロール願望因子」「決定的因子」「予防—準備のためのコントロール因子」「依存を避ける因子」「リーダーシップ因子」の5因子で構成され、20項目からなる測定用具である。

この Burger, et al. (1979) の測定用具を基に、特定の状況におけるコントロール願望を測定する用具が開発されてきた。ヘルスケアに関するある特定の状況におけるコントロール願望を測定するためには、Smith, et al. (1984) が、the desire for control of health care を開発した。特定の状況として、出産教育を受けた妊娠期の女性、もしくは亡くなりゆく末期患者を対象としていた。Smith, et al. (1984) は、ヘルスケアプロセスにおいて直接影響を及ぼす行動、もしくは関連する情報を提供する、あるいは両者の行動を選択することと述べていた。Logan, et al. (1991) は、歯科治療におけるコントロール願望と感情を測定する the Iowa Dental Control Index を開発した。Logan, et al., (1991) は、desire for dental control として、歯科治療用の椅子に座る時に起こりうることの制御を好む程度、及び痛みを感じる恐れを防ぐことができないことに対する関心の程度で評価すると述べていた。

また教育心理学の分野では、Wise, et al. (1996) が大学生の試験状況におけるコントロール願望を測定するために the Desire for Control on Examinations scale を開発した。the Desire for Control on Examinations について Wise, et al. (1996) は、試験中だけでなく、試験前の準備から試験後の結果を含めて制御することであると定義していた。

しかし、わが国では、コントロール願望を測定するために開発された用具は、見当たらなかった。

## VIII. 結論

保健医療分野におけるコントロール願望の概念分析を行った結果、次のことが言える。

- 1) 保健医療分野におけるコントロール願望の概念の定義は、「保健医療の出来事に対して、適切な範囲とは異なる自己の【思いどおりの基準】に【対象の制御】を願い、その実現のために行動することである。またコントロール願望の成立には、【何とかしなければならぬという思惑】が関与している」とする。
- 2) 保健医療分野におけるコントロール願望の先行要件は、【満足感を得ることへの欲求】、【目標とする状況の遂行の妨げ】、【コントロールできる思い込み】、【誤った身体に対する認識】、【獲得している知識】があげられる。

コントロール願望が発揮された結果、【非効果的な心理的身体的反応】、【効果的な心理的身体的反応】、【欲求の充足】、【欲求の未充足】がもたらされる。

- 3) コントロール願望により、【思い通りの基準】に【制御】する対象は、多岐にわたる。その結果、思いがけない非効果的な心理的身体的反応をもたらす恐れがある。このため、健康の維持・増進のためには、【制御】の対象を正確に把握することで、適切な健康管理方法を判断し実行できるために援助する必要がある。

また、当事者が適切な健康管理行動を実行するためには、当事者の【何とかしなければならぬという思惑】の背景を理解する必要がある。行動に働きかけるためには、この思惑の背景を踏まえたうえで援助することが不可欠であると考えられる。

- 4) 本研究では、コントロール願望 (desire for control) が、抄録やタイトルに含まれている論文を用いて検討したが、全てを反映していない可能性は否定できない。また、今回のコントロール願望の概念分析では、【制御】する対象が、自分自身に関するものと子どもに関するものが、混在していた。



より個々の状況に応じたコントロール願望を把握するために、自分自身の心身に関するものについてなのか、あるいは、親から子どもに心身に関するものなのか、まず対象を把握することが必要であると考えられる。

#### 概念分析の対象文献

- Gilmet, K., Burman, M.E. (2003): Stroke perceptions of well laypersons and professional caregivers. *Rehabilitation Nursing*, 28(2): 52-6.
- 広野 優子, 山中 龍宏 (2009): 保護者はなぜ不要な救急外来受診をするのか? (一電話相談の分析から一). *外来小児科*, 12(1): 90-94.
- 春日 武彦 (2008): 家族の困惑・家族の幸福 (2) コントロール願望について. *児童心理*, 62(7): 697-703.
- 島田 淳 (2012): 「歯科患者学」から探る GP の難症例対応 (強迫観念とコントロール願望). *Dental diamond*, 37(12): 154-158.
- 塩入 輝恵, 関口 紀子, 飯島 由美子他 (1999): 女子大生のやせ願望意識と行動. *東京家政大学研究紀要*, 39(2): 39-46.
- Smith, R.A., Wallston, B.S., Wallston, K.A., et al. (1984): Measuring desire for control of health care processes. *Journal of Personality and Social Psychology*, 47(2): 415-26.
- Volker ,D.L., Kahn, D., Penticuff, J.H. (2004): Patient control and end-of-life care part I: the advanced practice nurse perspective. *Oncology Nursing Forum*, 31(5):945-53.
- Wineberg, H., Werth, J.L. Jr. (2003): Physician-assisted suicide in Oregon: what are the key factors?. *Death Studies*, 27: 501-18.

#### 引用文献

- Abeles,R.P.(1991):The concept and measurement of quality of life in the Frail Elderly. Academic Press. San Diego.

- BOSS,P.(2002):Family stress management.2th ed.SagePublications. California.
- Burger ,J. M. (1992): Desire for control (personality,social,and clinical prspective). PLENUM PRESS. Newyork .
- Burger ,J. M.,Cooper,H.M.(1979):The desirability of control.motivation and emotion,3(4).381-393.
- Deci,L.E.,RyanM.R.(1985):Intrinsic motivation and self-determination in human behavior. Plenum press. Newyork.
- Greenberg,J.S.(2008): Comprehensive stress management. 10th ed . McGraw-Hill Hiher Education. New York.
- 濱嶋 朗, 竹内 郁郎, 石川 晃弘 (1997). *社会学小事典* (新版). 有斐閣.
- 宝月誠, 進藤雄三. (2005). *社会的コントロールの現在* (第 1 版). 世界思想社.
- Johnson ,J.L., Morse, J.M.(1990): Regaining contorol :The process of adjustment after myocartial inferction. *Heart & lung*, 19(2), 126-135.
- 春日武彦, 吉野朔実. (2007). 「治らない」時代の医療者心得帳. 医学書院.
- Lazarus,R.S.,Folkman,S.(1984):Stress,appraisal and coping.Sprubger publishing company. New York.
- Lewis,F.M. (1987):Advances in health education and promotion. Jai Press INC. London.
- Logan,H.L., Baron.R.S.,Keeley, k. , Law , et al. (1991): Desired control and felt control as mediators of stress in a dental setting. *Health psycology*, 10(5), 352-359.
- Orem, D. E. (1995): *Nursing (Concepts of Practice)*,5th ed. Mosby. Missouri.
- 新村 出. (2008). *広辞苑* (第 6 版). 岩波書店.
- 佐々木吉子, 井上智子, 矢富有見子ら (2006) :重症外相患者の急性期回復過程における全人的回復指標としてのコントロ

ール感と看護支援（2次分析），看護研究,39(6): 509-520.

Walker ,L. O., Avant, K. C., (1995): Strategies for theory construction in nursing .3rd ed. Appleton&Lange. Conneticut.

Wise, S.L, Roos, L. L., Lenald ,V.,et al. (1996): The development and validation of a scale measuring desire for control on examinations. Educational and psychological measrement, 56(4), 710-718.